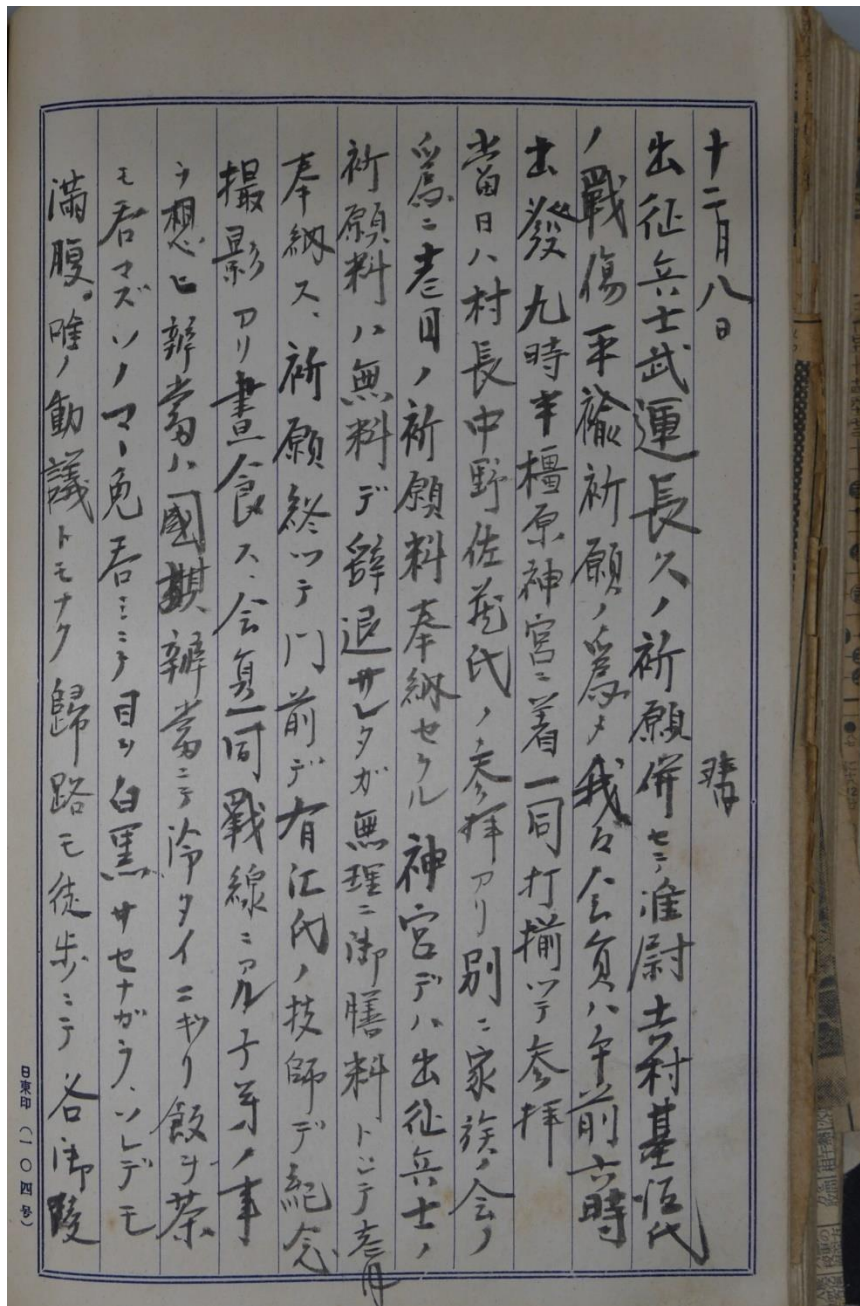


銃後の守(1)

～吐田郷村出征軍人家族の会の記録から



令和5年11月1日～6年2月28日

解題

今回から数回にわたって、昭和12年(1937)7月7日の日中戦争開始直後から、終戦の年の正月まで3冊(昭和12.9.21～/13.5.16～/16.9.13～20.1.5)残っている吐田郷(はんだごう)村の出征軍人家族の会の記録を紹介する。

吐田郷村は、現御所市の一部を区域とし、市の中心部の南西方に位置し、西は金剛山地を境界に大阪府と接している。明治22年、名柄・東名柄・森脇・宮戸・豊田・(西)寺田・関屋・増・多田の諸村が合併して成立した(本記録では人名の前にこの大字名が記されていることが多い)。昭和31年には、南方の葛城村と合併して葛上村となった後、同33年には再合併で御所市となった。昭和10年の国勢調査によれば村の現在人口は2278名(総務省統計局HPによる)、葛城村との合併の段階では、556戸で人口2715人、生業は農業が約6割を占めている(1-S31-40d『市町村廃置分合一件(17)』226コマ)。

当時の町村には、在郷軍人会や青年会等、国や県の指導によって結成または再編成され、ほぼすべての町村において組織されていた半ば公的な団体も多い。が、「出征軍人家族の会」はこうした団体とは異なり、自主的に作られたもので、「会則」は存在せず、「申合せ」を積み重ねて、それに替えていたことがわかる。会則に代わる第一回申合せでは、武運長久祈願が第一の目的とされ、月2回の祈願祭が会の事業の軸となり、付随する形で神社の参道整備も行っている。昭和12年12月2日の申合せでは、出征兵士が凱旋した場合、一言主神社へ記念品を献納することを決めている。「祈願」を主目的とする会の性格が現れていて興味深い。

祈願祭は、村内にある最大神社、当時の社格では県社の一言主神社で行われていたが、より身近な各大字の神社への巡拝も行われている。最初のものとしては、昭和11年11月1日、戦勝祝賀提灯行列の際に「各大字及び神社ニ参拝」したのが確認できる。本格的に巡拝すると、半日がかりになるので、頻繁にというわけではないが、その後もしばしば各神社巡拝は実施された。

「本会ノ会員ハ出征軍人ノ家族ニ限ル」とされていた会員数は発足時には58軒で、出征や兵士の帰還(凱旋)・戦死による増減はあるが、おおむね戦争の本格化により会員数は増えていき、昭和13年10月16日段階では、慰問品の配布数より127軒にまで増えていたことがわかる。活動記録から女性の姿は目立たないが、昭和13年8月18日の神社巡拝の際の参加人員を見ると、女性の参加者が男性を上回っている。

昭和12年12月8日には、村から約15キロ離れた榎原神宮

への参拝を行っている。昼食は、「国旗弁当」つまり白飯と梅干のみの日の丸弁当(但し握り飯)だが、「茶モ呑マズソノマヽ免呑ミニテ、目ヲ白黒サセナガラ、ソレデモ満腹」とある(表紙参照)。水分なしに食事をするというのも、「戦線ニアル子弟ノ事ヲ想」う一環として行われたのであろう。なお、これは鉄道を使わず徒歩で行われ、運賃相当額を徴収して会の基本財産として積み立てることにしていたが、12月4日の記録によると、反対論が出て返金することになったという。

なお、記録の筆者は、一冊目の裏表紙に、「記 小島重太郎」とあることから、大字名柄の世話係としても名が見える小島重太郎で、書きぶり等から、おおむねは、小島が最後まで書き続けていたと推定できる。特に今回紹介した部分では、会の記録とは別に「感想文」として、自分の戦争に対する考え方を述べている点、翻刻では略したが、特に昭和12年11月から13年2月頃まで、戦況を中心に新聞記事の見出しを転記しているのが特徴的である。開始された戦争に関しての強い関心と高揚感があらわれているといえる。

昭和13年5月15日には、村の青年一挙37人もの召集(いわゆる「赤紙」の到来)があり、その中には、小島重太郎の名もあった。そのため、記録1冊目の末尾から2冊目冒頭付近の5月15日～19日の日誌は、後任者が決まるまでと、一時的に引き継いだ池口角治郎が記していたが、小島は即日帰郷、つまりは身体等の理由から軍務に適さないと判断され、入営せずに済んでいる。そのため、5月23日からは小島が再び記録を記すことになった。かなり複雑な心境だったかとは思いますが、さすがにその心境までは、この家族の会の記録には記していない。また、自身についても、「小島氏」といった表記をしている。

昭和13年2月8日には、日中戦争で村からの初の戦死者が出るが、この人物は生前から村を離れて生活をし、家族も村に在住していなかったためか、村葬と通夜にこそ参加したものの、家族の会としてさしたる対処はしていない。しかし、8月31日に吉村忠雄の戦死の報が伝わった際には、初七日から満中忌(四十九日)まで7日ごとの追善供養には、大字世話係の他、一般会員も参列させている。戦死者の場合でも清酒2本分程度相当の3円と、会からの香料自体は多くない。しかし、こうした供養に参列した会員が、当時の社会的慣例に従って香料等を支出していたとすれば、相互扶助的な役割をも果たしていたことになる。後に紹介する分になるが、会員の追善供養への参加は、戦局悪化が相当進んでいた、昭和18年9月まで記録で確認できる。

(表紙)

「

昭和十二年九月二十一日

記録

(第壱号) 吐田郷村

出征軍人家族の会

」

出征軍人家族の会創立総会

昭和十二年九月二十一日正午、本村信用組合事務所ニ於テ、出征軍人家族の会創立総会ヲ開催。其顛末左ノ如シ

吉村安太郎君發起人ヲ代表シテ開会ノ挨拶ヲナシ、本会設立ノ趣旨ヲ述ベテ議事ニ移リ、満場異議ナク、左ノ申合セヲ可決承認。茲ニ無事本会ノ成立ヲ遂ゲ、午後二時閉会。引キ続キ国旗ヲ先頭ニ、村長ノ参同ヲ求メテ、一同一言主神社ニ参拜。出征軍人武運長久ノ祈願ヲナシ、神前ニ於テ会員各自出征軍人ノ氏名ヲ国旗ニ記入シ、終ッテ国旗掲揚式ニ移リ、会員一同敬礼ノ裡ニ、伊藤祭主ノ手ニヨリ社頭恭シク国旗掲揚、皇居遙拜ノ後散会ス。時ニ午後五時。此日天気晴朗、全員出席。

申合セ

一、戦地ニアル子弟並ニ家族ニ寄セラレタル、村民諸氏並ニ村内公私後援諸団体ノ、深厚ナル御同情・御後援ニ対シ、本会ノ名ニ於テ慎ンデ感謝ノ意ヲ表ス

二、本会ノ目的

一、戦地ニ在ル子弟ノ士氣ヲ鼓舞シ、併セテ武運長久ヲ祈ル

一、相携ヘテ共ニ自彊自戒、以テ出征軍人家族タル名誉ヲ穢サザラムコトヲ期ス

一、戦地ニ在ル子弟ノ動静ニ就テハ、時ニ必要ノ限度ニ於テ其ノ消息ヲ語り合フコトアルモ、常ニ慎重ノ態度ヲ持シ、苟モ軍機漏洩ノ礙アル言語ハ嚴ニ慎ムコト

一、戦地ニ在ル子弟ノ困苦ヲ憐レ、緊張一番心身ノ練磨修養ニ努メ、歩一歩生活改善ノ道ニ向ッテ

精進センコトヲ期ス

三、会員ハ毎月一日・十五日ノ二回、午後七時一言

主神社ニ参集、武運長久ノ祈願ヲナス

四、経費ヲ要スルトキハ会員平等負担ス

六(ママ)、本会ノ会員ハ出征軍人ノ家族ニ限ル

七、本会ニ左ノ世話係ヲ置ク

名柄三名、外大字各二名

右世話係ハ吉村安太郎君ノ指名ニヨリ左ノ通り決定

名柄 池口角治郎・小島重太郎・有江仙太郎・出羽

新次郎

豊田 吉村治三郎・吉村安太郎

森脇 梅田元治郎・島田安治郎

宮戸 吉村徳太郎

西寺田 梅田樽太郎・~~西芝己久~~吉森新太郎

多田 吉川久治・吉川康治郎

○東長柄 中野利吉

増 中村清太郎・杉田常次

関屋 中村猪治・吉村房太郎・中村兵治

以上

総会当日収支決算明細表(九月廿一日)

収入(会員軒数五九、老軒割宛十錢宛)

五円九十錢

支出

三円二十錢 国旗老流

二十錢 同 駄賃(鳥居払済)

老円 祈祷料

老円二十五錢 神酒老本

三十五錢 簿記帳老冊

五十錢 スルメ五枚

八錢 筆老本

合計 六円五十八錢

内国旗駄賃共三円四十錢也ハ村長中野佐蔵氏ヨリ寄附セラル

差引残高 老円九十七錢也ハ小島預リ

十月老日 金曜日 (小雨)

当夜ハ発会式ヨリノ最初ノ参拜日デアル。小雨ニモ拘

ラズ、午後七時ノ定刻前ヨリ続々参拝アリ。定刻七時ニ神前ニ於テ、会員揃ツテ祈願ス。当夜ハ森脇榎田元治郎氏ヨリ、白灯明ノ寄附ガアツタ。次ノ祈願祭ヨリ、会員一同ヨリオ供ヘスルコトニ決ス。又五日午前八時ヨリ一言主神社並松ノ道造リヲ、会員壺名宛奉仕スルコトニ決ス

(感想文)

去ル九月廿七日、突然ニ我ガ助川部隊長以下六十幾名カノ将兵ノ戦死傷者ノ悲報ガ郷土ニ。神仏ヲ祈ル老イタル親タチヤ、若キ妻、サテハ武運長久ヲ祈ル我等兄弟等ニハ、如何ニ響イタカ。唯【ママ、誰?】モノ顔、態度ニモ我若シ若カリセバ、妾ガ男ニ生レテキタラ、自分ト変レルモノナレバ、全体ガ真戦地ニアルモノノ如キ雰囲気ニ掩覆ワレ、祈願シ終ッテ一同小雨降ル中ヲ家路ニツイタ。

幸ニシテ今日迄ニ当村出身兵士中ニ戦死傷ナシ。之レモ各種団体及ビ出征家族ノ、真実味ノ表レデアルト共ニ、神仏ノ加護ニヨルモノト思フ。常ニ我々ハ日本ハ神国デアルト云フコトヲ忘レテハナラナイ。

十月五日 火曜日 (曇)

午前八時並松道ニ集合。会員一人モモレナク集合、直チニ着行、見違フバカリニ改修ナル。終ッテ神前ニ詣デ伊藤氏ノ寸志ノ神酒ヲ戴ク。又会員一同ノ申合せ左記ノ通り。

- 一、各出征兵士ノ部隊長宛ニ感謝慰問状ヲ出スコト
- 一、毎一日・十五日ヲ出征兵士デートシテ、我々銃後ノ会員ノ、ヨリ以上ニ出征兵士ニ対シテ後顧ノ憂ナカラシムヤウ、又会員ノ生活改善ニ資スルコト
- 一、毎一日・十五日ノ祈願祭ノ、神酒一本・御膳料壺円・白灯明種々費用ハ各自会員出支ノコト

(感想文)

アジア大陸ノ一角盧溝橋ニ於テ、支那側ノ不法射撃ニヨリ巻起ツタ大旋風、凄ジイ竜巻キノ中心ニスックト起チ上リ、抗日支那ヲ徹底ノ懲スベク、我等ノ子弟ガ戦線ニ赴イテヨリ最早ニヶ月余。其ノ赤誠ガ我等家族ノ神仏ヘノ日参トナリ、本日会員ノ道路普請トナ

ッテ表レル。其ノ不断ナキ信仰ノ通ジテカ、日日ノ新聞紙上ニ掲載、ラジオノ放送ニモ我等ノ子弟・父・夫等ノ、勇マシクモ涙グマシイ幾多ノ辛苦難行ニモ拘ラズ、未ダ一人ノ戦死傷者、及ビ病魔ニモ見舞レズ、皇国ノ為ニ充分身命ヲ捧ゲル事ノ出来ル事ヲ思ヘバ、神仏ノ加護ノ有難サヲ入身ニ思ヘテナラナイ。道普請ガ終リ石段ノ上ヨリ並松ヲ見渡セバ、信仰ノ力如何ニ大キイカヲ、シミジミ身ニ想ヘ、有難サニ知ラズ知ラズ目頭ガ熱クナツテクルノデアアル。家路ニ急イダノハ午前十時半過ギ。

本日有江氏ノ技師デ記念写真ノ撮影ガアリ、日ナラズ出来上ル事ト思フ。

十月九日 金曜日 晴

午後七時ヨリ龍正寺ニ於テ、各大字ヨリ世話掛リ参集。出征兵士ノ部隊長宛感謝慰問状ヲ出ス事ヲ決議シ、文案ハ別紙左ノ通り有江氏ニヨリ作成ス。状袋及ビ巻紙ハ会ヨリ支給シ、各大字持別レテ清書シ、十五日ノ参拝ニ持寄ルコトニシタ。

十月十五日 金曜日 晴

丁度秋祭りデモアリ、正午ヨリ参拝スルコトニナツタ。我々会員ノ手ニ依リ修繕ナツタ、並松道路ノ何ト清々シキコトヨ。二ノ鳥井前迄来ルト、寺田大字ノ国防婦人会ノ方々ノ百度参リ。其ノ甲斐甲斐シクモ真剣味アフルル熱心ナル祈リ、自然ト頭ガ下ルノヲ覚エ、一同拝殿ニ着座、祈願終リ神酒ヲ戴ク。森脇大字ノ榎田榎治郎氏ヨリ神酒一本寄贈ガアツタ。

有江氏ノ記念撮影ガアリ、各大字ノ家族ノ方々種々ナポーズデ撮ツテモラツタ。

丁度又当日ハ宮戸大字ノ御輿ノ渡御ヲ拝シ、再度祈願ヲ賜ヒ、座構ヨリ神酒ヲ戴キ、一同感激瑞喜、コレモ出征兵士家族ナレバコト、今更ナガラ戦地ニアル出征兵士ノ身上ニ思ヒヲ走ラセツ、会員一同ノ宮城ヲ遙拝シ家路ニ着タ。

出征兵士家族ノ会ヨリ、各部隊長宛ノ感謝慰問状ハ、当日全部投函ス。

慰問感謝状用封度・巻紙及十月分ノ御膳料並ニ

諸費用収支決算明細表

収入 金五円六十銭也

内 一軒宛 十銭ノ分 五円四十銭
 (部隊長宛手紙ヲ出シタ分)
 一軒 五銭ノ分 二十銭
 (手紙ヲ出サナイ会員)

支出

御膳料 壹円也(月二回貳円ノ内)
 神酒 壹円二十銭也(壹本)
 ローソク 三十二銭也(壹斤)
 筆 二十三銭也(二本)
 巻紙 壹円六十五銭也
 (拾壹本一本十五銭ノ割)
 封度 三十五銭也(七十枚)十枚 銭ノ割
 計 四円七十五銭也
 差引残高 八十五銭也 小島預リ
 略計 貳円八十二銭也 小島預リ

十月廿七日 水曜日 晴

午後一時ヨリ大正座ニ於テ、村軍人後援会主催ニテ、出征兵士家族慰安ノ観劇招待アリ。家族一同定刻前ヨリ続々入場、軍人後援会側ヨリ交々挨拶アリ、家族側ヨリ吉村徳三郎氏代表シテ謝辞ガアリ、終ツテ観劇。家族一同ハ劇ニ涙ヲソハラレナガラ、感謝ト満足ノウチニ午後五時頃三三五五帰路ニ着ク。

十一月壹日 日曜 曇小雨

偶然ニモ家族会ノ祈願日ト、昭和会主催ノ上海大場鎮占領ノ村民祝賀灯提行列ト、日ヲ同ジクシタノデ、我々会員一同モ今迄ニ一人ノ戦死傷者モナク、立派ニ戦場デ働ク事ノ出来ルノモ神仏ノ加護、各種団体ノ熱誠ナル祈願ニ依ル事ナド、種々ナ喜ビガ一度ニ爆發シタカノヤウ、揃ツテ元気ニ名柄小学校ニ集合(午後六時出発)。各大字及ビ神社ニ参拝、最後ニ一言主神社ニ於テ出征兵士ノ武運長久ヲ祈リ、九時半頃終ツテ小雨降ル中ヲ家路ニ着タ。

当日諸費用収支明細表

神酒一本 壹円二十銭也 吉村徳治郎代払済

差引残額 壹円五十二銭也 小島預リ

十一月三日 水曜 曇小雨

~~今日~~事変下ニ秋モイヨヨ更ケタ。今日三日明治節ノ佳日ヲ朴シテ、吐田郷村青年団主催デ、出征兵士ノ武運長久ノ祈願祭ヲ、一言主神社デ午後六時ヨリ石本主典ニヨリ、厳カニ行ハセラル。家族一同参拝、御供物ヲ戴キ七時半修了。

十一月五日 木曜日 晴曇後雨

午後六時ヨリ、昭和会主催一言主神社デ、出征兵士武運長久祈願及ビ写真額奉納式アリ。盛大裡ニ七時半修了。

感想文 十一月六日 金曜日 雨

毎日降り続ク憎ラシイ雨、丁度六月ノ梅雨ノヤウダ。北支、上海モ又イヤナ雨が降り続イテ、我ガ兵士達ヲ悩マシテキルノカ知ラ。今日ハ我ガ会員ノ子弟達カラノ音信ガ大分アツタラシク、家族ノ者達ヲ喜バシテキル。山西ノ太原ノ戦況ヲ報ズル新聞モラジオモ、大分活発ニナツテキタ。コハ二三日中ニハ完全ニ我ガ将兵ノ手ニ依リ、治安ガ確立サレルコト、思フ。又陸軍新鋭部隊モ五日未明、杭州湾北岸ニ困難ナル敵前上陸ヲ敢行シ大成功ヲ収メタ。真ニ人間ノ精神力ノ偉大ナ事ハ図リ知ルコトガ出来ナイ。日々我ガ皇軍ガ破竹ノ勢デ有利ニ進ンデ行クガ、其ノ裏面ニハ我々子弟幾多ノ涙グマシクモ美シイ戦場美談。凱旋ノ暁ニハ我々会員モソレヲ共ニ喜ビ、共ニ語ルヲ今カラ楽シミニ待ツテキル。神仏ニ祈リツツ、語ルモ涙、聞クモ涙、只感激アルノミ。

十一月八日 月曜日 日曜 雨

褒メルト何ラデモ降ルノ俗言ノヤウニ、最早十日以上モ降り続ク雨。天道人ヲ殺サズト云フガ、ナカナカドウシテ天道人ヲ殺スダ。此ノ寒空、アマツサエ降雨ノ中デノ我々子弟ノ労苦、想ヒ出サエ身ヲ切ラレルヤウダ。十五日ノ祈願日ガ、森脇大字ノ片上勝君ノ入營日十一日、午前十時ナノデ、繰上ゲテ八日午後七時

ニオ参リスルコトニナツタ。又当夜ハ宮戸大字トシテノ中本君ノ病氣平癒ノ祈願アリ。森脇大字トシテノ片上君ノ三日間ノ祈願アリ。カテハ加ヘテ山西省首府太原ヲ占領、息ツクヒマモナク快速部隊ノ南進、二重三重ニモノ喜ビヤラ……。デ当夜ハ降雨激シキ中ニモ一人ノ不参者ナク、緊張裡ニ祈願祭ヲ終了。社務所デ座談会ヲ催シ九時過ぎ散会ス。

十一月拾日 水曜 晴

午前七時役場集合。村各種団体長ノ激励ノ挨拶アリ。会員モ一同打揃ッテ御所駅迄見送り。汽笛一声万歳声裡ニ、片上君ハ元氣ヨク九時十分ノ列車デ壮途ニ着イタ。此ノ日ハ片上君ノ壮途ヲ祝福スルカノ如ク、前日来ノ降雨モ止ミ、雀ノサヘズリモ喜レシゲニ天気晴朗。我々会員モ万感胸ニセマリツツモ、片上君ノ前途ニ幸アレカシト祈リツツ帰路ニ着イタ。

十一月分収支明細表

収入金五円六十銭也

内訳 森脇九十銭 豊田六十銭 宮戸二十銭 寺田七十銭 多田三十銭 東名柄十銭 増三十銭 関屋八十銭 名柄一円二十銭

支出

御膳料 壹円也
神酒 壹円二十銭
ローソク 三十六銭
計貳円五十六銭也

差引残高 三円四銭也

十月分繰越金 壹円五十二銭也

合計金四円五十六銭也 小島預リ

感想文 十一月十二日 金曜 晴

支那軍最後ノ作戦根拠地タル上海南市総攻撃ノ十一日、晴レ渡ッタ暖カイ日デアル。世界戦史上忘レルコトノ出来ナイ休戦記念日。奇シクモ十一日午前十一時平和ノ女神ノ像ノ前デ、外人達ガ記念祭ヲ執行シテキルト同ジ時間ニ総攻撃ノ火蓋ハ切ラレタノダ。其ノ後余命幾時間モナク、南市、南翔共本日午前八時、

我ガ皇軍ノ為ニ占領サレタノダ。南京政府ハタシカニヘタバツテキル。ガ、マダヘタバツタト云ハナイ。ナゼダ？。考ヘテモ見ルガヨイ。マダ事変以来四ヶ月経ツカ、タタナイノジャカラ。イクラ小国デモ三ヶ月ヤ四ヶ月デ倒レテシマフ国家ハナイ。マシテ相手ハ支那ダ。下等動物ハ何処ヲ斬ラレテモ生キテキル如ク、支那ガ幼稚ナ模造国家ニ過ギナイダケニ、ソレダケ首都ヲ奪ラレテモ城下ノ盟ナゾシソウニ思ハレナイ。上海ハ支那ニトツテハ首都デ経済的ノ首都デ、ソノ上海ガ陥落シテモ、戦ガ終ツタヤウニ思ツタリ、支那政府ノ早急ニ倒レナイノヲ、不思議ガツタリシテハナラナイ。コハデ日本国内ニ一安心トイッタ空気が出レバ、直グ附込ンデクル。

速戦即決ハ希望トシテハ結構ナレド、銃後ノ国民ノオクビニモロニ出スベキ場合デハナク、長期膺懲コソ、長期抗日ヲ封ズル唯一ノ速決策ト思フ。事変後四ヶ月ヤ五ヶ月デ、日支何ゾレガ長期戦ニ堪ヘルヤヲ論ヅルハ早イ。長期交戦トハ何ヲ意味スルカ、イタヅラニ輕挙妄動ヲセズ、冷静ニ時局ヲ批判シ認識シ、徹底的ニ抗日支那、共產主義者ヲ膺懲シテコソ、幾多ノ英靈ヲ安ンズルノダト思フ。時局ハ益々多難、我々銃後ノ国民及出征兵士家族ハ、ヨリ以上ニ協力一致、銃後ノ守リヲ固ク、我々子弟ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメザルヤウ、思フ様奮戦出来ルヤウニセナケレバナラナイ。武力戦ニ勝ツダケデハナク、経済戦ニモ有利ナ立場指導ノ立場ニ立ッテコソ永遠ニ東洋平和額立【ママ】ノ因ヲ生ルノデアル。

十一月十二日

陸軍省発表午後七時半。天皇陛下ニオカセラレテハ、北支及内蒙方面ニ作戦中ノ陸軍将兵ニ対シ、本十二日午前十一時、参謀総長宮殿下ヲ召サレ優渥ナル勅語ヲ下賜アラセラレタリ。

勅語

北支及内蒙方面ニ作戦セル軍ノ将兵ハ、峻嶮ヲ度リ瀏濫ヲ踏ミ、克ク異域ノ野ヲ征キテ困苦ト欠乏トニ堪ヘ、長驅霆馳向フ所敵陣ヲ撃碎シ、皇威ヲ中外ニ宣揚セリ。朕深ク其忠節ヲ佳尚ス。思ウテ敵丸ニ殪レ病瘴ニ

僵レタル者ニ及ヘハ、寔ニ忉恒ニ勝ヘス。
 惟フニ派兵ノ目的ヲ達シ、東洋長久ノ平和ヲ確立セム
 コト、前程尚遼遠ナリ。爾等益々士氣ヲ淬勵シ艱難ヲ
 克服シ、以テ朕ノ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ。

畏クモ大元帥陛下ニハ、將兵ニ對シテ優渥ナル勅語
 ヲ賜ハリ、マコトニ恐懼措ク能ハザルトコトナリ。以テ
 聖旨ヲ奉體シ堅忍持久、銃後ノ我々ハ皇恩ノ万分ノ
 一ニ報ヒ奉ラナケレバナラナイ。

十一月十五日 日曜 晴

本日ヲ期シテ朝日新聞掲載ノ日支事変重要記事ノ題
 字ヲ書抜ク事ニ致シマシタ。

朝刊記事(第一面記事)

◎敵主力ノ殲滅戦展開

○敵軍五万、今ヤ袋ノ鼠、崑山ノ敵陣既ニ崩壊、
 常熟・蘇州モ風前ノ灯(上海特電十四日發)

【以下、新聞見出しの書抜きは日付ごと略】

十一月廿九日 英靈を迎えて

◎あゝ護国の英靈かへる。永遠の東洋平和確立の尊
 き人柱として河北の野に散った、我が助川部隊竹内
 長三郎大尉等七十九柱英靈の凱旋を迎える日は来た。
 過ぐる日、旗の波、歓呼の怒濤にどよめいた街村
 は、今や物みな静かに哀悼の気に満ちて居る。あゝ英
 靈永しえに安らげく眠られん事を祈って。

◎暖かい晩秋の日は暮れかゝり、家々のかまどより白
 い煙が立ち初める頃、突然に町から村え振り歩く鈴の
 音。凶か吉か、胸とどろかせつゝ号外を見れば、あゝ何
 たる被肉ぞや、英靈帰へる日時も同じ時、我が助川
 部隊名誉の戦死傷の報せ。一瞬互ひに顔を見合す
 ばかり。すい付けられるが如くに号外を読み下せば、
 幸か、不幸かどうも我が吐田郷出身者吉村基治氏の
 姓名も目にえいじた。神様どうかどうか吉村氏の身上
 に加護あらせられますやうに。重傷の中にも軽傷の有
 りますやうに。(無錫の戦ひにて)

十二月壱日 水曜 晴後雨(初霜降ル)

前日ハ十五日ノ祈願日ヲ繰上ゲテ八日ニオ参リシタ
 カラ、大分ノ日数ガアリ、殊ニ收穫期デモアリ、会員オ
 互ヒガ久シ振リノ思ヒデ種々ノ子弟ノ便リヲ取カハン参
 拜。祈願終ッテ社務所デ座談会ヲ催ス。当日ハ朝カラ
 吉村基治准尉ノ負傷平癒祈願(関屋大字ノ)アリ。又
 夜ハ会員ノ参拜。一日モ早ク平癒サレンコトヲ祈リ、并
 セテ子弟ノ武運長久ヲ祈ル。座談会席中会員ヨリ各
 大字ノ神社ヘ参拜ノ動議アリ。委員附託トシ九時散
 会ス。

十二月二日 木曜 雨(時々晴)

名柄龍正寺ニ於テ午後七時ヨリ、本会ノ各大字世話
 掛リノ参集ヲ求メ、左ノ協議事項ヲ決定ス

一、准尉吉村基治氏ノ戦傷平癒祈願、并セテ出征兵
 士ノ武運長久ヲ祈ル為メ本月八日(雨天ナレバ九
 日又ハ十一日)檀原神宮参拜

二、会ノ基本財産ノ拓出方法(廃物利用、各大字集
 参ノ事)

三、出征兵士凱旋ノ場合、本会ヨリ一言主神社ヘ紀
 念品献納ノ事

協議事項終リ後種々雑談、十一時過ぎ散会。

不参大字寺田、多田、増

当夜世話掛各自、自弁茶菓料十銭過剰金一般会計
 繰入レ。

十二月四日 土曜 曇り(時々吹雪)

午後一時ヨリ吉村基治氏ノ戦傷平癒祈願祭ヲ、村軍
 人後援会主催デ一言主神社デ行ワレタ。

我々会員モ、村民一同モ打揃ッテ参拜。二時終了。
 祈願祭終了後、後援会長ヨリ中野富三郎氏ヨリ、出征
 兵士武運長久ヲ祈ル為メ、村長・軍友会長・在郷軍人
 分会長・我々家族ノ会ヨリ二名、計六名ヲ代表シテ伊
 勢神宮参拜ノ費用、全部ヲ~~支出~~寄付セラレン事ヲ承リ、
 厚ク感謝、家族ノ会ヨリ相談ノ結果、一番多ク出征兵
 士ヲ出シテキル家族ト云フコトニナリ、宮戸吉村徳治
 郎氏、森脇ハ二名出テキル家庭ガ二軒有ルノデ相談
 ノ結果、米田徳三郎氏ト云フコトニナッテ、十一日代
 表参拜スルコトニナッタ。

十二月五日 日曜 晴

午後五時ヨリ当村昭和会軍人擁護部主催デ、一言主神社ニ於テ、出征兵士武運長久ノ祈願祭執行セラレ、家族ノ会打揃ッテ参拝。神酒ヲ戴キ終了。

十二月八日 晴

出征兵士武運長久ノ祈願、併セテ准尉吉川基治氏ノ戦傷平癒祈願ノ為メ、我々会員ハ午前六時出発、九時半檀原神宮着、一同打揃ッテ参拝。

当日ハ村長中野佐蔵氏ノ参拝アリ。別ニ家族ノ会ノ為ニ老円ノ祈願料奉納セラル。神宮デハ出征兵士ノ祈願料ハ無料デ辞退サレタガ、無理ニ御膳料トシテ老円奉納ス。祈願終ッテ門前デ有江氏ノ技師デ記念撮影アリ。昼食ス。会員一同戦線ニアル子弟ノ事ヲ想ヒ、弁当ハ国旗弁当ニテ冷タイニギリ飯ヲ茶モ吞マズ、ソノマヽ免吞ミニテ、目ヲ白黒サセナガラ、ソレデモ満腹。唯ノ動議トモナク帰路モ徒歩ニテ、各御陵参拝ヲシテ帰ヘルコトニ決シ、其レニ対スル電乗車賃代トシテ、一人宛三十銭也ヲ據金シ、会ノ基本財産ヲ拓出スルコトヲ申合セ実行シタ。神武御陵デハ、谷原氏ノ特別ノ厚意デ両陛下・皇族方ノ御座所及神苑ノ拝観ヲ許サレ感激ニ満チテ拝観。足取りモ元氣ニテ、御所公園ニテ一同散会。三三五五帰路ニ着イタ。時ニ午後二時半。

十二月十日 金曜 晴

南京陥落。アヽツイニ敵首都南京ハ落チタ。十日夕皇軍ハ堂々ト南京城ニ突入シ各城門ヲ占領。城頭高ク感激ノ日章旗ヲヘンポイント翻シタノダ。アヽナント云フ歴史的瞬間デアラウ。銃後一億ノ国民達ハ如何ニ此ノ日ヲ待チ焦レタコトカ。今コソソノ日ヲ迎ヘタノダ。号外ノベルハ高鳴リ、ラジオモ喜ビニ躍ッテ日本建国以来始メテノ敵首都占領ヲ叫ビツツケタ。戦線ノ勇士ヨ、兵隊サン、我等家族会ノ子弟ヨ、アリガタウ、有難ウ。

勝ッテ兜ノ緒ヲ締メヨ。

戦捷デ徒ニ祝賀気分ニ流レル事ナク、今日迄ノ輝カシイ戦果ハ、偏ヘニ戦場ノ花ト散ツタ護国ノ英霊、尊イ

戦傷者ニヨッテ齋ラサレタ事ヲ忘レテハナラナイ。

十二月十四日 火曜 晴

十五日ノ祈願祭ヲ一日繰上ゲテオ参リスルコトニシタ。十五日ハ名柄小学校校堂ニ於テ、国民精神国家総動員ノ講演ト撮影活動写真ガアルノ事ト、殊ニ南京完全陥落ノ祝捷トヲ兼ネテ、一日繰り上ルコトニシタ。例ニ依リ一同神前ニテ祈願シ終ッテ神酒ヲ戴キ終ッテ社務所ニテ座談会ヲ催ス。

唯ノ顔ニモ態度ニモ、南京ノ陥落(完全)ヲ祝福スルガ如ク、何口ニナク話ハ続キ、九時半頃帰途ニ着ク。**【欄外朱筆あり】**「其ノ席上東名柄ノ中野利吉ガ、八日ノ檀原神宮参拝帰途ノ乗車代一人三十銭ヲ社会ノ基金積立ニ拠金シタ事ニ対シ不服ヲ申出デ、満場ニ計リ返金スルコトニシタ。ソノ理由ハ自分等ノ子供ハ、別段ニ危険ナ所ニ行ッテ居ラナイカラ構ワナイトカ、凱旋ノ場合ニ必要ナ金ナレバ不服ダトカ、各種団体デ祈願ヲシテキルカラ、我々家族ノ会デ祈願ヲスル必要ガナイカラト云フ理由デアル。常人デ考ヘ及バザル心ノ持主ノ男デアル。馬鹿ト云フヨリモソゾロ其ノ愚カサヲ哀レニ思フ。出征家族ノ会員中ニデモコンナ心理ノ親ガアル事ハ、日本帝国臣民**【ママ、衍】**トシテモ恥ヅベキ事デアル。当人ノ為ニモ悲シムベキ不祥事デアル。

【欄外朱筆】

「印ハオ互ヒノ感情上ノ違ヒニヨリ意見ノ相違ナリシガ円満解決ス

十二月十七日 金曜 晴

此ノ項ヲ以テ一時中止致シマス

【記事見出しの書抜きを中止するの意味か】

十二月廿三日 木曜 晴

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ、各大字世話掛リ参集。左ノ協議事項決議セリ。

一、昭和十三年一月一日ニハ一言主神社へ鏡餅(三升)一重ヲ会ヨリオ供ヘスルコト

一、当日ハ各大字神社へ会員一同揃ッテ廻参拝

一、会員家族中ニ死亡者有リタル時ハ会ヨリ香料(一月)及ビ会員一同参列ノコト
協議終リ座談会ニ移リ十二時頃帰宅。

十二月卅一日

寺田森田松、森脇木本両君除隊ニナリ帰郷。

昭和十三年一月一日 土曜 晴

事変下ニ迎ヘタ輝ク昭和十三年ノ新春、敵首都南京落チテ戦塵未ダ収マラズ、東洋平和永遠ノ和平目指シテ王師更ニサラニ進マントスル、意義アル新春第一回ノ祈願祭ヲ、午後八時ヨリ石本主典ニヨリ厳カニ施行セラレタ。当日ハ国民精神、国家総動員ニヨリノ主旨ニモトヅキ四方拝ヲナスベク、同時刻ニハ村民ノ参拝モ多ク、殊ニ多田山崎幸治氏ノ召集ニ依ル祈願祭モ行ハレ、式典終了後社前ニ於テ会員一同ノ記念撮影ヲナシ、社務所ニ於テ座談会ヲ催シ、十時盛會裡ニ帰途ニ着ク。当日ハ会ヨリ鏡餅ヲ奉納。

同日午後六時ヨリ各大字世話掛リ参集。名柄大字ノ植村松蔵氏・寺田ノ梅田檜太郎氏妻ノ両氏死亡ノ為メ、香料各壱円也ヲ各大字世話掛リニ組ニ分レ自訪弔問贈呈後、龍正寺ニ於テ左記申合セス。

一、葬列ノ写真ヲ撮影、梅田・植村両家へ贈呈スルコト

一、葬儀当日ハ会員一同参列ノコト

一、会員名簿作成ノコト

一、社前ニ於ケル記念写真ハ各自一枚宛有江氏ノ厚意ニ依リ実費デ配布ノコト

一、臨時支出多キ為メ本月ニ限り一軒宛二十錢也徴収ノコト

一月四日 火曜 晴

午前八時半役場へ集合。各種団体長ノ激励感謝ノ挨拶アリ。終ッテ山崎君ノ答辞アリ。元氣ニ~~往途ニ着イタ~~各種団体及ビ家族ノ会員一同打揃ッテ御所迄見送り、午前十時廿八分発列車ニテ万歳盛裡ニ、オ互ヒ万歳ヲ胸ニ秘メ勇躍往途ニ着イタ。

五日

山崎君ハ不幸ニモ即日帰郷サレタ。

一月五日 水曜 晴

昭和会軍人後援会主催ノ出征兵士武運長久祈願祭ヲ、午後七時ヨリ一言主神社デ執行。我々会員一同参拝、御神酒ヲ戴キ解散。

同日去ル二日山田君ヨリ電報アリ(大連)。鶴首シテ待ッテキタガ、五日午前ヒヨッコリ帰ッテキタ。アマリニモ帰ヘッタノガアツケナク、只ヨク無事デ帰ッテ来タヲ連発スルバカリ。

一月十五日 土曜 晴

午後七時ヨリ、家族之会員ノ出征兵士武運長久ノ祈願祭執行。御神酒ヲ戴キ、終ッテ社務所デ山内今太郎氏ノ北支戦線ヨリ帰ヘッテノ実戦談ヲ聞き、今更ラナガラ皇軍将兵ノ労苦ヲ想ヒ、息ヅマル内ニ九時半頃一同散會。

一月廿三日 日曜 晴

午後七時ヨリ、森脇梅田芳信氏ノ戦傷及ビ名柄黒田末広氏ノ出征ノ武運長久トヲ兼ネテ、祈願祭ヲ執行。終了後社務所ニテ中野本家及ビー党ヨリ、会員家族ニ対シ、軒別ニ慰問品ヲ下サレル事ヲ報告シ、一同喜び合ヒ十時頃解散。

一月廿五日 火曜 晴

今日ハ九紫ノ大安。我家族之会ニ取ッテ何タル吉日デアラウ。又終生忘ル、事ノ出来ナイ感激ノ想出ノ日デアアル。今更ラナガラ戦地ニアル子弟ノ事ヲ想ヒ出シ、皇国ノ為ニ家ヲ忘レ、妻子ヲ忘レ、日夜奮戦スル出征兵士ノ家族ナレバコソ、カクマデノ慰問ヲ戴ク事ハ只々感謝感激アルノミ。愈ヨ自彊自戒、出征兵士ノ本分ヲ完フスルコトヲ祈ルト共ニ、我ガ会員モ銃後ノ守リヲ固ク、此ノ厚志ニソムンザランヤウ心掛ケネバナラナイ。

本日ハ中野一族会ヨリノ慰問品、特等北見ノ荒巻ザケヲ分配スベク、各大字世話掛リノ者、午前九時ヨリ中野佐蔵氏宅ニ参集、各箱ヲ開封、ソノ立派ナルニ驚キ且ツ喜び合ヒ、一軒割宛一貫目位ニ分配。有江氏ノ

紀念撮影アリ。終ッテ中野佐蔵氏宅別間デ酒肴ノ接待アリ。~~重ネ重ネ~~思ヒモ依ラザル御馳走ニ、一同時ヲ忘レ、戦地ニ有ル子弟ノ家族ナレバコソト、我が夫、子弟~~一言モ一時ハ忘レタカノ如ク~~ニ感謝シツハモ、又早く持帰ヘッテ他会員ニモ此喜ビ立派ナル慰問品ヲ配ツノモ、一時ハ~~ソノ事モ忘レタカノ如ク~~、充分ニ觀ヲ尽シ各自受持~~手区イキ~~ノ慰問品ヲ満手、各大字ヨリ一名ヅハ代表トシテ中野氏一族方ヘ御礼挨拶ニ参上。各自受持区ノ慰問品ヲ車ニ満載、帰路ニ着ク。

又当日中野佐蔵氏ヨリ我が家族ノ会ヘ、金貳拾円ヲ御寄附下サレ重ネ重ネ下サレ物、何ト御礼ヲ申シテヨイヤラ、其ノ喜ビハ例ヘヤウナク只々ソノ御厚志ニ対シ感謝ノ涙アルノミ。

二月 壱日 丹火曜 曇リ雪

旧正ノ二日デモアルノデ、午後壱時ヨリ祈願祭ヲ執行、終了後神酒ヲ戴キ、後社務所デ座談会ヲ催ス。各大字世話掛ノ動議ニ依リ、ヨリ一層会員ノ親睦ヲ図リ、当会ヘ寄贈下サレン各位ヘノ御礼状文案作成ハ小島氏ヘ一任。礼状ハ其ノ大字ノ世話掛リガ持参スルコトニナツタ。文案別紙ノ通り。

当日ハ関屋中村格三郎氏ヨリ当会ヘ金拾円也ヲ寄贈。村有志者ヨリノ当会ニ対スル熱情ヲ想ヘバ益々其ノ御厚志ニソムカザランヤウ、自彊自戒セネバナラナイ。

二月五日 土曜 雨

極寒ト云フニ細イ糸ノ様ナ降雨。ヤッパリ降雪何寸ト云フヤウナ時候デアッテホシイ。

午後七時ヨリ昭和会主催ノ出征兵士武運長久ノ祈願祭ニ、会員一同揃ッテ参拝、九時終了。

二月八日 火曜 晴

吐田郷村始メテノ戦死者(日支事変)上等兵浅田清治氏ノ英霊ヲトムラフベク、午後七時ヨリ奉安所龍正寺ニ於テ家族会員一同、打揃ッテ御通夜シタ。生前ハ吐田郷村ニモ居住サレズ、知人モ友人モナク、有リシ日ノ写真ニ依リ始メテ知ル位ナ事デアッタ。会員諸氏ノ心カラナル読経ニ、定メシ安ラカニネムラレル事ト

思フ。

アハ英霊ヨ永ヘニ安ラカニ眠ラレン事ヲ。

二月十二日 土曜

英霊永ニ眠ル。江南戦線ニ於テ名誉ノ戦死ヲトゲラレタ、本村出身上等兵浅田清次氏ノ英霊ヲ称ヘル村葬ハ、十二日午後一時ヨリ名柄小学校ニ於テ、村民各種団体千余名参列ノ上、仏式ニヨリ盛大ニ執行サレタ。

二月十五日 火曜 晴

午後一時ヨリ神社ニ参拝祈願祭ヲ執行。夜ハ龍正寺ニ於テ国家総動員、国民精神総動員ニ依ル講演ヲ聞ク事ニナリ、繰リ上ゲテ午後一時ヨリ祈願スル事ニナツタ。

社務所ニ於ケル座談会席上、各大字本年入営者ノ二三名入会アリ。三時過ぎ閉会。

二月廿一日 月曜 晴

午後三時ヨリ本村軍友会主催ノ出征兵士ノ武運長久ノ祈願祭、並ニ植村勇・梅田滋・土田直治君三名ノ戦傷平癒祈願祭アリ。我が会員モ一同打揃ッテ参拝ス。

二月廿五日 金曜 晴

午後七時ヨリ一言主神社ニ於テ、梅田滋・土田直治・植村勇三君ノ戦傷平癒祈願祭ヲ執行、八時半終了。

三月 壱日 火曜 晴

午後七時ヨリ一言主神社ニ於テ祈願祭執行、後社務所ニ於テ座談会ヲ催シ、席上植村勇君ノ隊長ヨリ賞辞ノ写シヲ朗読セラレ、会員一同モ喜ビヲ共ニシ、益々奮励セラレン事ヲ祈リツハ散会。

三月五日 土曜 曇リ後雨

午後七時ヨリ一言主神社ニ於テ、出征兵士ノ武運長久ノ祈願祭アリ。後社務所ニテ座談会ノ席上、十五日ノ我が会ノ祈願祭ヨリ、午後八時ヨリ祈願祭ヲ執行スルコトニ衆議一決。

三月十五日 火曜 晴

午後八時ヨリ祈願祭執行。一同打揃ッテ参拝終了後社務所ニ於テ座談会ヲ催ス。席上各大字世話掛リ改選ノ動議アリシモ、其ノマヽ留任ヲ万場一致可決後、雑誌記載ノ出征兵士陣中便り文ヲ有江氏代読下サレ、今更ナガラ皇軍将士ノ労苦ヲ忍ビツヽ帰路ニ着イタ。

三月廿八日 月曜 雨

四月一日ノ祈願祭、都合上繰上ゲ本日舉行(午後八時)。会員打揃ッテ参拝後、社務所ニ於テ座談会ヲ催ス。席上廿九日各大字世話掛リ龍正寺へ参集、種々ト打合セ事項決定致シタキ旨動議アリ。午後七時ヨリ参集ヲ決議シ九時散会。

三月廿九日 火曜 晴

午後七時龍正寺ニ於テ各大字世話掛参集。左ノ事項ヲ協議決定ス。

- 一、会員毎月ノ祈願祭ニハ不参ナク参列ノコト
 - 一、労力奉仕ニ一言主神社松並木(参道)ヲ補修ノコト
 - 一、村当局へ講演会開催ノ件交渉ノコト
- 当日中野佐蔵氏・中野新右衛門両氏ヲ介シテ、中野一族会ヨリ、我家族会へ金五拾円也ヲ寄附シテ下サル。当夜各大字世話掛リ参集ノ席上報告、一同重ネ重ネノ厚意ニ感泣、各大字ヨリ世話掛リ一名宛ニテ、中野一党へオ礼ニ参上ノコト申合セ十二時散会。

四月十一日 月曜 雨

本村軍人後援会主催ニテ、午後一時ヨリ小学校校堂ニ於テ、軍人家族慰安会並ニ軍事講演会開催。皇后陛下ノ御歌及ビ奈良県知事ヨリノ菓子ヲ戴キ、益々銃後ノ我々家族ノ責任ノ重大ナルヲ深ク感じ五時散会。

講師 奈良聯隊区司令官 今井文二氏

四月十五日 金曜 晴

当夜ノ祈願祭ハ在郷軍人会ヨリ執行シテ下サル。終了後社務所ニ於テ、分会長山田馬蔵氏ヨリ慰問激励ノ挨拶アリ。一同深ク感謝、長期戦ニ対スル我々会員

ノ決心ヲ披露後、左ノ申合セヲナシ十時解散。分会ヨリノ菓子ヲ戴キテ。尚名柄大字ノ梅本安治氏ガ四月廿日召集ニテ、奈良聯隊へ入営サレルノデ武運長久ヲ祈ル為ノオ願ヒモ共ニシタ。

申合セ事項

- 一、実費本月(四月)ヨリ毎月五銭(臨時費用ハ此限リニ非ラズ)
 - 一、在郷軍人会ヨリ毎月二回ノ祈願祭ニハ代表ヲ列参列シテ戴クコト
 - 一、一言主神社松並木道路修繕ノ労力奉仕(十六日実行)
- 寺田ノ吉村岩吉氏死亡(十四日)。全員打揃ッテ葬儀ニ参列ス。

四月十六日 土曜 晴

午後一時ヨリ昨日ノ申合セ事項ノ、一言主神社参道路ノ改修及ビ掃除ヲ決行。全員一同気持チモ朗カニ従事。四時頃修了。ソレヨリ社前ニ於テ武運長久ノ祈願ヲナシ、神社ヨリ御供物ヲ戴キ、境内ニテ神酒ヲ会員一同ニテ戴キ、有江氏ニヨッテ紀念ノ撮影アリ。五時半解散ス。未ダニ戦死者モナク無事軍務ニ服シ、第一線ニ活躍出来ルノモ神仏ノ加護ニ依ルモノ、ソノオ礼ニ対スル会員ノ労力奉仕。気持チモ朗カニ散々五五家路ニ着イタ。

四月廿日 水曜 晴

梅本安治君入営。当日午前六時名柄神社参拝。武運長久ヲ祈り役場へ参集。七時出発。沿道モ~~ニギキ~~~~ニ~~勇マシク元気ニ、八時十八分御所駅発ノ列車ニテ奈良聯隊へ入営シタ。

四月廿一日 木曜 晴

本村軍人後援会主催ニヨル、大朝主催ノ征戦博覧会見物。当日午前七時半大鉄御所駅出発、九時半博覧会場着。サシモニ広キ大会場モ、人、人、人ノ波。種々出征兵士ノ労苦ヲ想ブ造り物、今更ナガラ出征兵士ノ身ニ上想ヒヲ走セテ、只感激ノ涙ガ知ラズ知ラズホヽワツタッテクル。帰途花岡氏ノ厚意デ朝日新聞

社見学。我々が入手スル迄ノ(新聞ニナッテ)経路、驚キト感心ノ目ヲ見張ルバカリ。屋上デ紀念撮影アリ。午後七時ツカレタ足ヲ引キナガラ、デモ満足ト喜ビノ内ニ会員一同無事帰村シタ。

四月廿五日 月曜 晴

石本道雄氏、召集解除ニ依リ目出度ク凱旋サレル。

四月廿六日 火曜 晴

吉村鎮治郎氏、目出度ク凱旋サレル。

五月一日 日曜 晴後雨

午後八時ヨリ一言主神社ニテ、会員ノ武運長久ノ祈願祭執行。在郷軍人会ヨリ山田分会長参列、並ニ関屋吉村政一君、北支戦線ニ於テ四月十一日名誉ノ負傷ノ通知、実家へ四月廿九日通報アリ。平癒祈願祭ヲ執行。

尚名柄大字ノ木村檜市氏ヨリ、家族会へ金三円也ヲ寄附セラレタ事ヲ報告、一同ト共ニ喜ビ合フ。

五月四日 水曜 晴

出征兵士家族慰安ノタメ中野一族会ヨリ、大正座ニ於テ開演中ノ万歳諸芸大会ノ入場券、各家族二枚宛配賦シテ下サレ、家族ハ打揃ッテ午後六時ヨリ見物ニ行ツタ。

五月八日 日曜 雨

午後八時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ世話掛リ参集(宮戸、森脇不参)。徐州会戦ノ戦況モ活発ニナッテキタノデ出征兵士ノ武運長久ヲ祈ルタメ、各大字ノ神社仏閣参拝ヲ午後一時ヨリ実行スルコトヲ決議シ、左ノ事項ヲ申合セ十一時散会ス。

一、本会ノ解散ハ總會ノ決議ニ依ル

一、特別理由有ル者ハ、退会ニ際シ各大字世話掛リニ申出デ、世話掛リヨリ毎月一日、十五日ノ例祭(祈願祭)席上報告

一、戦時体制中ノ帰還兵士ハ、各大字世話掛リダケ迎ニ行ク事。尚次ノ定例祈願祭ニ無事帰還報告並ニ

祈願祭執行

一、会員中ノ出征兵士家族ニ対スル歡婚葬祭ニ付テハ、誠意ヲ以テ適當ノ処置ヲ講ズルコト。尚負傷大小ニ拘ラズ、内地帰還入院者ニ限り見舞金トシテ壹円呈上(家族慰問)。

五月十日 火曜 晴

降り続イタ雨モカラリト晴レテ久シ振リノ快晴。神仏モ我等会員ノ祈願祭ニ加護アラセリシガ如ク、一同喜ビノ内ニ午後一時龍正寺前ニ全部参集。第一番ニ名柄神社ニ参拝。順次各大字神社仏閣ニ参拝。一言主神社ヲ最後ニ心カラ祈リヲ捧ゲテ、五時半散会ス。

尚当日森脇大字ノ米田善雄君、四月廿六日北支戦線ニ於テ戦傷サレタ事ヲ五月九日家族へ便リ有り。戦傷平癒祈願ヲシタ。

五月十三日 金曜 晴

村長中村駒治郎氏ヨリ、金貳拾円也ヲ家族会へ寄附シテ下サル。

五月十五日

会員一同県社葛城・一言主神社ニ例祈願執行。当日石本先生来社。

五月十五日 午后七時

本村に左記之人員召集ナル(○印ハ即日帰郷)

左記

関屋 中島清一・西芝好信

増 木村幸夫・○高村甚造・梅田初治・山田黒造・米田正雄・木村平治郎・中川市太郎

豊田 吉村甚七・吉川政一

森脇 梅田寅雄・久保勝治郎・梅田俊信・谷垣浅治郎・吉川常治・片上佐平・木村栄松・吉川忠春

東名柄 中野忠一・米田太三郎・前田善平・前田忠雄・中野専次

名柄 中田茂・○小島重太郎・井関清治・上田岩太郎・錦野治作・邨田稔・鳥居達之助・上田好太郎

宮戸 吉本卯三郎・吉村忠蔵

西寺田 高橋勲慶・梅田櫛太郎・梅田源治
右之通三十七名

【以下出征者氏名、所属一覽略】

(裏表紙)

「

記 小島重太郎
第壱号

」

(表紙)

「

日記 十三年五月

第貳号

記録

吐田郷村出征軍人

家族の会

」

五月十六日

一、昨十五日三十七名之召集者武運長久之祈願ヲ
(一言主神社ニ)執行セリ。

一、本家族之会員会計係小島重太郎君、召集ニ応ジ
ラレシニ付、一時池口角治郎ニ本日引次ギ、後任者
出来ルマデ、小生臨時引受ク事ニセリ。

五月十九日

一、本日徐州ヲ完全ニ攻略、公式発表アリ。

五月二十三日

一、小島重太郎君、除隊帰郷セラレ、元通り留任ニ付
本日書類引次ギセリ。

六月一日 晴

午後八時ヨリ定例祈願祭執行。尚中村九一君ノ戦地
ニ於テ発病、入院サレシヲ五月廿五日ニ便リアリ。同

夜引続キ平癒祈願モ執行ス。五月十五日ノ動員召集
ニテ家族会モ激増、社務所ニ入りキレズ、今更ナガラ
戦争ノ拡大シアルヲ想フ。

六月二日 晴

午後六時名柄大正座ニ於テ、吐田郷村消防組主催
出征兵士家族慰安、浪花節大会開催。我家族会一
軒宛入場券二枚配布。出演者満州日出丸師一行。

六月十五日 曇時々雨

連日降り続ク豪雨。戦線ニアル子弟ノ身ノ上ニ思ひヲ
走セナガラ、農繁期ニモ拘ラズ全員一同定刻八時ニ
参集、祈願祭執行。在郷軍人会ヨリ神酒一本寄贈サ
レタ。徐州大会戦二次グ連日ノ皇軍猛追撃、出征兵
士ノ労苦ヤ思フベシ。呼々。

六月十八日 晴

関屋中村真治氏ノ娘サンガ亡クナラレ、本日葬儀執
行サレタガ、農繁期ノ事トテ各大字ヨリ参列セズ、関屋
大字ノ世話掛リニ依頼ス。香料壺円呈ス。

六月十九日

森脇島田君出征。午後三時半役場出発。各大字会
員モ大分農繁期ニモ拘ラズ見送りシタ。

七月一日 曇り小雨

午後一時名柄小学校々庭忠魂石前参集。各大字ノ
神社参拝、午後四時一言主神社ニ於テ祈願祭執行。
五時半散会ス。

此ノ日、日支事変一周年ニ際シ、幸ニモ神仏ノ加護
ニ依リ~~未ダ~~我ガ子弟ハ幾多ノ戦闘ニ参加、辛苦際ス
ルニアマリアリト云ヘドモ、一名ノ戦死者モナク、又徐
州大会戦ニモ健在。家族トシテ喜ビ此ノ上モナシ。
益々神仏ノ加護アラセラルヤウ各大字巡拝(神社)ス。

七月二日 曇り小雨

大字増山田亀太郎氏ヨリ縦八寸、横六寸、深サ五寸
ノ桧無地箱寄贈(家族会ニ)サレ有難ク戴イタ。

七月七日 木曜

一周年デアル。去年七月七日ノ夜ヲフリ返ッテ早クモ昔日ノ感じガスル。一木部隊ノ夜間演習ニ注ガレタ二十九軍ノ弾ノ雨カラ、立雲ノヨウニ見ル見ル拵ガッテ行ツタ抗日戦線ハ全支ヲ掩ヒ、現在戦線ノ長サハ、安北東北地方カラ山西省境開封・潜山・湖口・杭州ヲ連ネル二千三百キロニ達シ、日章旗ノ翻ヘル範圍ハ、察哈爾・綏遠・河北・河南・山東・山西・江蘇・安徽ノ全省及ビ浙江・福建・江西・広東ノ一部ヲ含ミ、マサニ支那二十二省ノ半ヲ併スルニイタリ、我占領面積百六万平方キロ、我ガ本州ノ約五倍、此ノ皇軍将士ノ活躍ノ裏面ニハ有ラユル大日本国民ノ犠牲ト労苦、忍体トヲ忘レテハナラナイ。此ノ記念スベキ日、我ガ吐田郷村ニ於テモ、午後六時ヨリ一言主神社ニ参拝、皇軍将兵ノ武運長久ヲ祈ルト同時ニ、幾多英靈ニ一分間ノ黙禱ヲ捧ゲ、銃後ノ守リヲ益々固ク心ニチカッテ七時散会ス。

当日龍正寺(名柄)ニ於テモ、午前八時ヨリ征戦一周年紀念ヲ朴シテ、皇軍将兵武運長久ノ祈願及幾多ノ英靈ノ冥福ヲ祈願スル為、家族会員モ一同参拝、鷲尾師ノ読経裡ニ九時半家路ニ着ク。

七月十四日 木曜 曇リ後晴

午後五時ヨリ大字多田太田神社ニ於テ、大字多田主催ニ依ル皇軍戦捷、並ニ村出身出征軍人武運長久ノ祈願祭執行サレ、会員一同参拝終了後、拝殿ニ於テ御神酒ヲ賜リ、更ニ御供物及ビ慰問品ヲ戴キ七時散会。

七月十五日 晴

午後八時ヨリ家族会定例祈願祭ヲ執行、終了後社務所ニ於テ雑談例日ノ如シ。

七月十九日 晴

午後七時ヨリ一言主神社ニ於テ、大字豊田吉村正俊、名柄大村仙太郎両君ノ病氣平癒祈願祭ヲ執行。会員一同打揃ッテ参拝。一日モ早く快癒、第一戦ニ出ラレ

ル事ヲ念ジ九時散会ス。

七月廿日 晴

午後八時ヨリ吐田郷村軍友会主催ニテ、出征兵士武運長久祈願並ニ吉村正俊・大村仙太郎両君ノ病氣平癒祈願祭ヲ執行サレ、会員一同参列祈願、九時解散。

七月廿四日

午後七時ヨリ豊田大字青年支部主催ニテ、豊田地蔵尊ニ於テ、出征兵士ノ武運長久並ニ吉村正俊・大村仙太郎両君ノ病氣平癒祈願祭執行サレ、会員一同参拝。御供物及仏前ローソク一箱宛ヲ戴キ、散々伍々九時頃家路ニ附ク。

八月壹日 雨

午後八時ヨリ家族会祈願祭例祭執行。在郷軍人分会ヨリ分会長片上茂雄氏列席サル。終了後、社務所ニ於テ座談会催ス。席上当分ノ間、月掛実費十銭也ヲ徴収スルコトヲ、満場一致決議ス。

八月六日

午後七時ヨリ一言主神社ニ於テ、応召兵中野・中村・木村・吉川ノ武運長久祈願祭執行。

八月十四日 晴

吐田郷村在郷軍人分会主催ニテ、名柄龍正寺ニ於テ本村出身、関屋故橋重太郎・増故中川良雄・名柄故浅田清司三君ノ追善供養会ヲ執行(午後八時)サレ会員モ一同参拝。有リシ日ヲ想ヒ生前ノ勲功ヲタへ午後九時閉会。

八月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願祭例祭執行。同夜森脇梅田俊信・名柄ノ谷口英治・森脇梅田安音治郎三君ノ病氣・戦傷ノ平癒祈願例祭モ執行。当夜ハ在郷軍人会及軍友会参列サレ、才供物一重ネ宛ヲ戴キ九時半頃終了。

八月十八日 晴

北支・中支・南支ニ皇軍ノ活躍、殊ニ漢口陥落ノ運命ノ近ヅキツハアル今日、我等子弟、夫等ノ武運長久ヲ祈ルタメ、村内各神社巡拝ヲ午後一時ヨリシタ。最後ニ一言主神社ニ於テ、森脇大字ノ西川君ノ応召、入営ノ武運長久モ合セテ祈願シタ。

巡拝人員八十三名(内男三十九名、女四十四名)

八月廿七日 晴後雨

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ、各大字世話掛リ参集。左ノ事項ヲ協議申合セス。

申合セ事項

- 一、一言主神社参道道路修繕 九月八日実施
- 二、傷病兵士ノ平癒祈願ハ毎月一日、十五日ノ例祭後
- 三、御神酒ハ如何ナル場合ニ於テモ一本限リトス
- 四、会員ノ檀原神宮勤勞奉仕ハ九月中ニ実行ノコト
- 五、負傷兵士(内内地帰還者ニ限ル)ノ家族慰問及ビ見舞金(金壹円也)ヲ贈呈。一言主神社ノオ守リ、御供物ヲ添へ
- 六、出征兵士ノ家族ニテ、直傍尊属及出征兵士ノ配偶者ニテ、病氣ノ場合ハ、家庭慰問及見舞金(金壹円也)ヲ贈呈(五、六ノ項目ハ当該大字世話掛一名、他大字世話掛計二名宛ニテ慰問及見舞ヲス)
- 七、家族会ヨリ出征兵士(本村出身)ニ慰問状ヲ出スコト

五、六項目ノ第一回贈呈者氏名

負傷見舞

関屋 吉村基治・中村英利・吉村政一

宮戸 仲本豊繁

森脇 梅田芳信

豊田 吉村正俊

病氣見舞

東名柄 前田忠蔵

名柄 島井達之助

宮戸 吉村徳太郎

増 森田常吉

寺田 吉村信治

当日中野一統ヨリ出征兵士家族ニ対シ、中元ノ慰問ト

シテ三輪ソーメン一貫目宛(時価一円五六十銭)箱入ニテ百七家族ヘ下サレ、各大字世話掛迄下サレタヲ、各大字世話掛ガ各家族ヘ配布シタ。何日ニ変ラス、中野一統ノ我々家族ニ対スル御厚情終生忘レテハナラス。御厚情ニ対シ御礼言上ノ為メ、吉村徳太郎・中野利吉・小島重太郎三氏代表シテ参上シタ。

八月廿九日 晴

高田町ニ住居サレテ居ル弁護士池口次郎氏ヨリ、村出身出征兵士ニ慰問品贈呈ニ関シ、家族会ヘオ手紙アリ。各大字世話掛リ参集(龍正寺)。有難ク受納ニ一決。十一時散会ス。

役場ニ榎田源治・小島重太郎二氏行キ人名簿(出征兵士)ヲ写シ、池口次郎氏ニオ返事スルコトヲ托ス。計百二十七名。

八月卅一日

トウトウ我吐田郷村カラモ、初メテノ戦線ニ於ケル犠牲者ガ出尊イ犠牲者ガ出タ。本日午前十一時過ギ原隊ヨリ役場ヘノ、名柄出身工兵上等兵吉村忠雄君戦病死ノ訃報詳細。戦運命ノ神ニ見離サレテカ、戦病死トハ、サゾ本人モ残念デ有ツタラウ。ア、英霊今何処、安ラカニ眠ランコトヲ。

当夜各大字世話掛一名宛、代表ニテ弔問ス。

九月一日 晴

午後七時ヨリ出征兵士武運長久祈願祭例祭執行。終了後前田善平君ノ病氣平癒祈願祭執行。席上八月廿七日ノ申合セ事項報告、一同承認。当夜帰途、梅田源治氏宅ヘ世話掛一同参集、吉村忠雄君戦病死ニ関シ、左ノ事項ヲ申合セ、霊前供物ヲ八百竹商店ヘ依頼ス。

申合セ事項

一、香料 貳円

一、霊前供物(乾物一式)参円

一、初七日(九月二日)ヨリ毎忌日毎ニ、各大字世話掛リハ必ズ参拝、外会員有志モ参拝(理由 会員相互自彊自戒ノ為メ)

初七日参拝欠席者宮戸大字世話掛り

九月四日 晴後雨

午後一時半頃、大阪高島屋百貨店調製ノ慰問袋百二十六個、及ビ贈呈状明細書ヲ添へ、池口次郎氏ヨリ自動車ニテ御届ケ下サツタ。又吉村忠雄君ノ香料五円モ共ニオ送り下サル。何カラ何迄、細心ニ互ル御心付ケ、会員一同感泣シツ、各大字世話掛リノ手ニ依リ分配。午後五時四十分ノ自動車ニテ、吉村徳太郎・吉村保太郎・森兵造・小島重太郎ノ四氏(全部自弁費)代表デ高田町池口次郎氏宅へ取りアヘツ御礼参上。九時半帰宅。ソレヨリ池口角治郎・小島重太郎両氏、香料ヲ持ッテ吉村作次宅へ持参ス。当日午後二時ヨリ、会員一同東名柄前田忠雄君ノ妻トラヘサン死亡、葬儀ニ参列。香料一円贈呈。慰問品贈呈状明細書ハ別冊ニテ保管ス。

九月八日 晴

午後五時ヨリ出征軍人武運長久祈願、並ニ応召者名柄吉村明、増木村・森、宮戸島田、森脇梅田厳五君ノ武運長久祈願祭執行。丁度今日ハ旧盆十五日デ、会員一同打揃ッテ心カラ祈願。風水害ニモ搦シサレズ健コヤカニ穰リツ、アル田畑ヲ社前ニ眺メツ、更ニ社前ニヌカヅキ解散。

九月九日 晴

午後八時ヨリ吉村忠雄君ノ二忌日ニ参拝。御供物ヲ各自戴キ十時頃帰宅ス。

九月十五日 晴

秋晴レノ心地ヨイオ天気。丁度神社ノ秋季例祭ト同日ニ恵マレタ家族祭ノ祈願祭モ、県奉幣使参拝直後、午前十一時ヨリ執行。終了後奉納ノ御供餅一重ヲ戴キ各世話掛リヨリ家族ニ分配ス。

九月十六日 晴

午後七時ヨリ名柄吉村忠雄君、三七日ニ会員参列。十時読経終了、一同帰宅ス。

当夜前田喜平君帰還入院(奈良)ノ為、左記~~六~~五氏ガ金壺封及ビ神社ノ御守リ、御供物ヲ持参、御見舞(家庭へ)ニ行キ、家族ノ人々ヲ慰ム

梅田源治・吉村徳太郎・池口角治郎・小島重太郎・中野新十郎

九月十七日 晴

午後七時ヨリ森脇大字ノ木村久男君ノ武運長久祈願祭執行(十五日応召、廿日入隊)。

九月十八日 晴

満洲事変七周年記念日ヲシテ、午前九時ヨリ名柄小学校講堂ニ於テ、国民精神総動員、婦人報国大会ヲ開催。出征軍人家族ノ婦人ニ限ラレ、国防婦人会ヨリ招待アリ。大イニ銃後ノ婦人トシテノ国家ニ尽スベキ事、有益ナル講演アリ。午後四時解散(昼食国防婦人会ヨリ支給)。午後七時ヨリ事変ニュースノ撮影アリ。終日ニ互ッテ一同銃後ニ処スベキヤ、~~会務ヲ~~我々出征軍人家族ノ婦人トシテノ覚悟ト、出征軍人ノ後顧ノ憂ナカラシメザランヤウノ熱意トヲ胸ニシッカリキザミツ、午後十時散会ス。

九月廿三日 雨後晴

今日ハ吉村忠雄君ノ四七日。午後七時ヨリ家族会ヨリ参拝。午後十時一同帰宅。

九月廿八日 晴

増梅田熊司応召。十月一日伏見輜重隊入隊ニ付、午後七時ヨリ武運長久ノ祈願祭執行ス。一言主神社ニ於テ。

九月卅日 晴

午後七時ヨリ吉村忠雄君ノ五七忌日ニ一同参拝。十時帰宅ス。

十月一日 晴

九月廿六日ヨリ施行サレタ中部防空演習、十月一日ヨリ本格的訓練ニ入り、昼ハ秋空高ク澄ミ渡ル大空ニ

爆音高く飛行機ノ襲撃、夜ハ灯火管制下ニ真暗闇之第一線ニ活動スル子弟ヲ思フ時、只神様ニ武運長久ヲ祈ルアルノミ。家族会一同打揃ッテ午後一時ヨリ各大字神社巡拝。最後ニ一言主神社前ニ於テ祈願ナシ、午後五時散会ス。

十月三日 雨後晴

会員相互ノ懸案デアッタ、一言主神社境内へ奉納ノ松、関屋中村平作氏ノ持山ヨリ寄附ヲ受ケル事ニナリ、午後三時ヨリ中村氏ノ案内デ豊田吉村徳三郎・森脇梅田元治郎・宮戸吉村徳太郎・寺田森新太郎・名柄池口角太郎・小島重太郎ノ諸氏ガ下見ニ行き、帰途中村平作氏宅デ非常ノ接待ヲ受ケ、七時頃一同帰宅ス。

十月七日 晴

午前七時大字関屋水分神社ニテ一同集合(人員三十二名)。俗称龍正寺山ニ登山、奉納木掘出シノ作業ニ着手。午後〇時半ヨリ最難事、山ヨリ川向フノ県道上ヘノ出シニ着ク。途中山ヨリ大木(目方二百五十貫位)ヲ下ス時ノ有様、人ノ和ノ偉大サヲシミジミ思ヒ出サス。

午後六時日足ノ短カイ秋ノ日モ暮レ、人ノ顔モ見エナクナル頃、一言主神社ノ石段ノ下迄到着。当日ハソノマニテ、翌日又全会員総出ニテ植ヘルコトニシテ一同帰宅ス。

当日ハ朝カラ山ヘ登ル者ハ、此日弁当持チニテ出カケ、昼カラハ全部総出ニテ神社ノ境内ヲ清掃ヲシタ。

当日午前ヨリノ献木掘り作業ニ従事者

名柄 池口角治郎・小島重太郎・石本鎖一郎・有江仙太郎・谷口栄治郎・境田竹治郎

東名柄 中野利吉・谷口由太郎・中野新十郎

寺田 森兵造・梅田喜市・森新太郎

多田 山崎健蔵

宮戸 仲本芳見・仲本勝太郎・島田政太郎

森脇 梅田元治郎・梅田檜治郎・梅田源治

増 木村勝治郎・仲川幸吉・杉田常治

豊田 吉村徳三郎・吉村正一郎・木村安治郎・吉村音

吉

関屋 吉村政一・橋信治郎・中村兵治・中村猪之治・中村平作

十月八日 晴

午前七時ヨリ会員全員神社ニ参集。婦人ノ方共協力、植ヘル場所迄易々ト引揚げ、一同交互ニ記念ノ一畝。一畝ノ土ヲ胸ニ各子弟武運長久ヲ祈リ、並ニ永遠ニ繁茂ヲ祈リツ、植ヘ終リ、神前ニテ祈願ヲナシ、寄附者ヨリノ神酒ヲ戴キ、十二時散会ス。

神酒寄附者 東名柄 中野千太郎

関屋 吉村檜吉

森脇 伊藤治三郎

献木ニ関スル費用細目

一、金壹円九十銭

関屋中村平作氏 麻ナワ及ビクヒノ損害代トシテ白糖糖七斤寸志、一斤三十七銭ノ割

一、金壹円五十銭

寺田森新太郎氏車ノ破損代トシテ寸志

一、金五円

当日会員ノ菓子代(アンパン)

一、金壹円四十八銭

ナワ代(信用組合及中村兵治氏ヨリ買求ム)

一、金六十銭

チリメンジャコ九十匁(水本魚店ヨリ買求)

一、金五十銭

セキヤ橋信治郎氏ヨリ糸ヅナノ破損代寸志

一、金二十二銭

肥料(マコ)信用組合ヨリ買求ム)

一、金

標本(立札)

十月十三日 晴

吉村忠雄君ノ満中忌ニ午後七時ヨリ一同参列。満中忌ノ供物(菓子一円七十三銭)ヲ会ヨリス。志トシテ、吉村家ヨリ参列者一同ニ神前小ローソク(十二銭位)ヲ下サル。月日ノ立ツノハ早イモノデ早四十九日モ終ツタニ、英霊ハ故山ニ帰ヘラズ。

十月十五日 雨

今日ハ氏神様ノ秋祭り。聖戦下ニフサハシク、雨降りシキル中ヲ子弟ノ武運長久ヲ念ジツ、午後一時ヨリ一言主神社ニ参列、祈願祭ヲ執行。村在郷軍人会及軍友会ヨリ御供物ヲ戴キ二時半解散。併セテ山崎幸治君ノ名誉ノ負傷ノ通知、航空便ニテ部隊長ヨリ十日附ケニテ実家ニ有リ。早速平癒祈願ヲ執行。一日モ早く快癒、再ビ第一線ニ於テ活躍セラレンコトヲ念ジ終了。

十月十六日 晴

本日突然関屋吉村房太郎、同堀畑敬治(旧姓吉村、房太郎氏ノ弟)両氏事務所(家族会)小島重太郎氏宅ニ来ラレ、金壹百五十円也ヲ持参サレ、コレハホンノ自分ノ志デアルト云ワレ、戦線ニアル出征兵士慰問ニシテクレトテ下サル。何ト云フ有難イ御芳志ダロウ。只々感謝感激、涙ヲモツテ有難ク受納。出征軍人各個宛ニ分配スルコトニ決シ、各大字世話掛一同、受持区ニ分配ス。

寄贈者堀畑敬治郎氏ノ

現住所 堺市少林寺町西二丁

寄贈金分配大字別人員

関屋九名、増二十一名、名柄二十三名、東名柄十一名、多田七名、西寺田十三名、宮戸九名、森脇二十三名、豊田十一名

合計百二十七名

寄附金明細

一、壹百五十円也

内訳壹百二十七円(分配金一人一円宛)

二十三円 会ノ積立ニ預金

十月廿日 曇

多田北村久吉氏ヨリ、堺市堀畑敬治郎氏ヨリ受ケタ慰問金壹百也ヲ、会ノ為メ意義有ランメル様、家族会ニ寄贈、有難ク戴ク。

十月廿二日 晴

午後二時堺市堀富合資会社ニ堀畑氏ヲ訪問。過日ノ慰問金ノ謝礼及ビ分配人員表ヲ呈出後、同氏ヨリ非常ナル歓待ヲ受ケ、今更ラ子弟ノ出征ノ為メナレバコト感激シツ、帰郷ス。会ヨリ訪問者ニ対シ一人実費トシテ一円五十銭支給ス。

訪問者 宮戸吉村徳太郎・名柄小島重太郎ノ二名ナリキ。

十月廿五日 晴

関屋中島清治君、〇〇江上流ノ激戦ニ於テ十月十九日午前八時三十分、砲弾ニテ名誉ノ戦死ノ報ヲ、東名柄前田忠雄君ヨリノ航空便ニテ(本日朝ノ便)通知アリ。午後七時ヨリ会員及各大字世話掛一同霊前ニ参拜ス。未ダ公報及ビ詳細ノ報来ラズ。中島君ハ今更ラ言フマタツ吐田郷村有為ノ青年ニテ、家族ハ両及兄妹五人。盛物一カゴ(三円)霊前ニ供ス。

十月廿八日 晴

陸、海軍大本営午後六時三十分発表、本廿七日午後五時三十分武漢三鎮完全攻略ス。何ト云フ歓喜ニ満チタ、日本帝国臣民トシテ永久ニ忘レル事ノ出来ナイ、記念スベキ歴史的ナ日デアラウ。ダガ此ノ歓喜ノ裏ニハ、幾多ノ我々子弟、否皇軍ノ尊イ犠牲ト労苦ノアルヲ忘レテハナラナイ。必ズユルメテハナラナイ心ノ駒ヨリ以上ニ、銃後ノ守リヲ固ク出征軍人家族トシテ辱カラシメザランヤウニ、セナケレバナラナイ。今日ノ此ノ記念スベキ日ニ、益々子弟ノ武運長久~~及~~ヲ祈願スル為メ、各大字ノ神社巡拜ヲシタ。最後ニ一言主神社ニ参拜。午後五時、各自子弟ノ武運ヲ心ニ念ジツ、解散。

十月卅日 曇

福島隊(近藤部隊)軍曹井阪義雄(旧姓西芝)君ヨリノ通信ニテ、西寺田森一義君ガ去ル九月廿六日〇〇山ノ夜襲ニ、小隊長ノ伝令トシテ、小隊長ト共ニ出發、~~死シ~~戦死。又多田北村芳春君ハ、去ル十月六日〇〇山ノ激戦ニ敵手榴弾ヲ脛部ニ受ケ戦死。尚又名柄ノ杉原光春君ハ負傷、ソノ程度ハ不明。戦死者ハ未

ダ原隊ヨリ公報来ラズ。戦死後一ヶ月モ経過スルモ詳細分ラズ。只友人ヨリ第一報アルノミ。家族会ニテモ、各大字世話掛リ昼ヨリ小島宅ニ参集。各戦死者ノ遺家族ヲ訪問、悔ミヲ申シテ帰宅。午後七時ヨリ森一義君ノ靈前ニ八時半迄御通夜。午後九時ヨリ北村芳春君ノ靈前ニテ通夜。十時半頃帰宅ス。英靈ヨ今何処、永遠ニ安ラカニ眠ラレヨ。靈前ノ盛物(三円)ヲ各一個宛供ス。

十月卅一日 晴

午後六時ヨリ関屋中島清治君ノ二七日ニ参列。九時一同帰宅ス。

十一月一日 晴

午後七時ヨリ出征軍人武運長久ノ祈願祭執行。終了後社務所ニ於テ種々報告、会員ノ承認ヲ得。大字森脇ヨリ御神饌(マン十、三百位)サレ会員一同戴ク。尚家族会ヨリ一言主神社へ円座五十枚也ヲ寄進ス。円座一枚五十五銭。会員ハ当時(十一月一日)計百十名、一人宛二十五銭。送料七十銭ハ会ノ会計ヨリ支出。円座ハ各自負担スルコトハシタ。計二十七円五十銭也ト連名綴リヲ附シ贈呈ス。尚当夜ノ祈願祭ニ森脇大字ヨリマンヂュウ三百個ヲ寄贈、奉納セラレ、家族会員一同戴ク。

十一月三日 晴

今三日、事変下ニ再ビ迎ヘタ明治節ノ尊厳、高遠ナル佳日。広東ニ次グ漢口陥落ニ一層意義深シ。全国ニ於テハ午後九時一制二十分間ノ黙禱ヲ捧ゲ、皇軍勇士ノ武運長久トヲ祈ツタ。此ノ佳キ日トシテ吐田郷村男・女青年団主催デ、村出身出征軍人ノ武運長久祈願祭ヲ執行サレ、家族会一同参列(午後七時ヨリ)。終了後御神饌ヲ戴キ八時過ぎ解散ス。

十一月四日 晴

寺田森一義君ノ初七日ニ各大字会員四五名位宛ニテ参拝ス(名柄大字ハ支障ナキ者ニ限り参拝)。

十一月五日 晴

多田北村芳春君ノ初七日ニテ、午後六時ヨリ各大字ヨリ支障ナキ者参拝ス。

十一月七日 晴後雨

午後六時、関屋中島清治君ノ三七日ニ参拝。収穫期ニ拘ラズ、会員ノ参拝者多ク、会員ノ結合益々固シ。

十一月九日 晴

午前十一時頃動員令下令。家族会ヨリノ祈願祭午後七時執行。出征軍人ノ武運長久ヲ祈願スルト共ニ、鷲尾宣雄君ノ武運長久モ祈願シタ。

十一月十一日 曇リ

鷲尾宣雄君本日午後一時半勇躍出征ノ壮途ニ着ク。我が家族会一同モ、収穫期ニモ拘ラズ多数御所駅迄見送りシタ。益々銃後ノ守ノ固キヲ如実ニ示シ、頼実シキ感ゾ一層深ム。尚当夜ハ寺田大字森一義君ノ二七日ニ当リ一同参拝。九時頃帰宅ス。

十一月十二日 曇リ後雪

今年ハ例年ヨリ早く寒サ一倍身ニ思ヘ、夜ハ雨ニアラレサヘ交リ、ソノ上風サヘ吹き暴レ極寒ヲ思ワセシム寒サ。ソノ中ヲモ構ハズ、北村芳雄君ノ二七日会員多数参列。九時過ぎ又降りシキル雨ノ中ヲ帰宅ス。当日吐田郷村各種団体代表者(軍人後援会)ノ方々ガ、村内ノ出征軍人会慰問ニ廻ラレ、金一封(一円)ト奈良県知事三島氏ヨリノ慰問品国旗箱入一流宛トヲ下サレタ。

十一月十四日 晴

午後六時ヨリ中島清治君ノ四七日ニ一同参拝。九時半終了帰宅ス。

十一月十五日 晴

~~漢口~~武漢三鎮陥落後モ皇軍ノ進撃益々激シク、急迫ノ手ヲ緩メズ、戦果拡大破竹ノ勢ナリ。午後七時ヨリ出征軍人ノ武運長久祈願祭ニ参拝。終了後社務所ニ於

テ種々報告。九時過ぎ帰宅ス、一同揃ッテ。在郷軍人会・軍友会ヨリオ供物ヲシテ下サル。

十一月十六日 雨

午後七時ヨリ増米田太吉氏ノ病氣見舞ノ為メ、宮戸吉村徳太郎、名柄池口角治郎・小島重太郎、関屋中村兵治、増山田亀太郎・松田常司ノ諸氏ガ家族会代表トシテ行き、八時過ぎ帰宅ス。慰問品トシテ金一封ヲ贈呈ス。

十一月十七日 晴

午後七時ヨリ多田山崎幸司君戦傷見舞ノタメ家庭へ。森脇梅田源治、関屋中村兵治、名柄小島重太郎・池口角治郎、多田吉川久治ノ諸氏ガ代表トシテ慰問。慰問金一封及御神饌御守ト持参、贈呈。一日モ早く全快セラレンコトヲ念ジツ、辞去ス。

十一月十八日 晴

多田北村芳春君四七日(理由 戦死後三ヶ月ニ互ルノデ繰り上げ三日目毎ニ御通夜)。寺田森一義君三七日ガ同時ニナツタノデ、会員モ合シテ参列スルコトニナリ参拝。各大字共鷲尾君入営ニツキ、~~夫字ノ和尚ガ読経シタ。~~多田ハ檜原九品寺清水氏ガ導師トナリ読経セラル。

十一月廿一日 晴

多田北村芳春君、関屋中島清治君ノ五七日ニ会員モ二組ニ分レ参拝シタ。

十一月廿四日 晴

多田北村芳春君ノ六七日ニ会員一同参拝ス。

十一月廿五日 晴

寺田森一義君ノ四七日ニ会員一同参拝ス。収穫期モ追々ト終ッテ来タノデ、参拝者モ急ニ増加シテ来タ。

十一月廿七日 晴

多田北村芳春君ノ七七日ニ、午後七時ヨリ会員及ビ

世話掛リ参拝。午後九時過ぎ終了、帰宅ス。最後ノオ別レトテ参拝者モ多ク、家族会ヨリ供物(菓子一円)ヲシタ。

十一月廿八日 晴

関屋中島清治君ノ六七日ニ会員一同参拝。

十一月廿九日 晴

午後七時ヨリ龍正寺ニ於テ各大字世話掛リ参集。左ノ事項ヲ申合せ。

一、増米田太吉氏死亡、卅日ノ葬儀ニ会員一同参列ノコト、会ヨリ香典一円贈呈

十二月四日吉村忠雄君百ケ日ニ参列ノコト、会ヨリ盛物(一円程度)ヲスルコト、及ビ向後戦死者百ケ日ニハ霊前へ供物ヲスルコト(一円程度)

村葬(戦死者)ニハ香料ハ式場へ持参スルコト、及ビ当日ハ供物一切ハナサザルコト

戦線ノ子弟へノ会ヨリ慰問状ヲ出スコト

慰問文(会ヨリノ慰問文・事業報告書・小学生ノ慰問文 起草者梅田源治・吉村保太郎・有江仙太郎・小島重太郎

十二月一日 晴

午前七時ヨリ村消防組主催ニテ、一言主神社ニ於テ、村出身出征軍人ノ武運長久並ニ戦傷病者上田岩太郎~~吉村正一~~平癒祈願ヲ執行サレ、会員一同参拝。御供物ヲ戴キ八時終了、解散ス。戦傷病祈願者木本常治・吉村正一・吉村甚七・吉村忠蔵・谷口栄治(六名)。午後四時ヨリ家族会祈願祭例祭ヲ執行。夜ハ消防組ノ家族慰安活動写真招待ニテ、大正座へ全部打揃ッテ見物ニ行き、十時過ぎ一同喜ビト感謝ノ裡ニ散々吾々帰路ニ着ク。

主催 吐田郷村消防組合

後援 在郷軍人分会

十二月二日 晴

午後六時ヨリ寺田森一義君ノ五七日ニ参拝。席上森君ノ中隊長ヨリ戦死当時ノ状況ノ便リアリ。高橋幸太郎

氏代読セラレ、ソノ当時ノ状況及ビ立派ナル戦死ノ有様ニ、参列者唯一人涙ナクシテ聞キ居ル者トテナク、今更ラナガラ仏前ニ向ッテ心カラ合拝。英霊ノ冥福ヲ祈リツハ、八時半帰路ニ着ク。

十二月三日 晴

午後七時ヨリ昭和会主催一言主神社ニ於テ出征軍人武運長久祈願祭執行。

十二月四日 晴

光陰矢ノ如シ、吉村治雄君ノ百ケ日。午後七時ヨリ家族会員一同参拝。霊前ニ御供物(線香箱入り壺個)ヲシタ。詳報未ダ来ラズ。

十二月五日 晴

関屋中島清治君ノ七七日ニ、午後六時ヨリ会員一同最後ノオ別レニ参列。心カラ冥福ヲ祈リ九時頃帰宅ス。会ヨリ御供物(太鼓マンナー円)ヲ霊前ニ供ヘル。永英霊永ヘニ安ラカク眠ラレンコトヲ祈ル。

十二月八日 晴

午後七時ヨリ一言主神社ニ於テ、本年度徴兵検査合格者入営兵二十三名、武運長久祈願祭ヲ家族会ニヨリ執行。オ守及供物ヲ伝達ス。当日森脇梅田元治郎氏ノ夫人ノ葬儀ニ午後二時ヨリ会員一同参列。会ヨリ香料一円ス。

十二月九日 晴

寺田森一義君六七日ニ参拝。尚当夜有江仙太郎・小島重太郎・池口角治郎・山田亀太郎・吉村徳太郎、会員外堀内祥介・井関昇作・各諸氏、小島君宅ニテ出征軍人家族会報及ビ学生慰問文・会ノ慰問文合封。出征軍人宛ニ発送ノ準備ヲナシ全部完了、投函ス。計百二十八通。

十二月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。軍友会・在郷軍人会ヨリ神饌アリ(紋菓子)。又谷口栄治郎氏ヨリローソク三箱、

会ノ方ヘ寄贈アツタ。

十二月十六日 晴

午後六時ヨリ寺田森一義君ノ七七日ニ参拝。一同打揃ッテ霊前ニ額ツキ、永遠ニ安ラカク眠ラレン様伏拝ミ八時半終了。霊前ニ供物(菓子一円太鼓マンナ)ス。

十二月十七日 晴

午後六時ヨリ各大字世話掛リ一名宛、小島宅ニ参集。松原元春君・谷口栄治君・上田岩太郎君、負傷内地帰還サレタノデ、各家族慰問ノ為メ見舞金一円也ヲ持参、家族ノ方ヲ慰ム。

十二月廿三日 晴

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ、各大字世話掛リ参集。寺田森一義君・多田北村芳春君・名柄ノ吉村忠雄君ノ、郷土ヘノ喪ノ凱旋ニ依ル霊前参拝ノ日割ヲ左ノ通り訣メタ。

廿五日 寺田ヘ → 森脇・宮戸・名柄

同 多田ヘ → 関屋・増・名柄

廿七日 寺田ヘ → 東名柄・豊田

同 多田ヘ → 森脇・宮戸

同 名柄ヘ → 関屋・増

廿八日 名柄ヘ → 豊田・東名柄

廿九日 寺田ヘ → 関屋・増

同 多田ヘ → 東名柄・増・豊田

同 名柄ヘ → 森脇・宮戸

十二月廿四日 晴曇リ

ア、尊シ興亜ノ礎石、白樞肅々郷土ニ還ル。大別・江北ノ戦闘ニ散ツタ聖戦ノ花、近藤・小松及池田各部隊ノ忠勇将士ニ交ッテ、我郷村出身ノ北村芳春・森一義・吉村忠雄二君ノ英霊モ喪ノ凱旋。午後四時二十八分(臨時列車)御所駅着。各種団体ノ出迎ヲ受ケ一同敬礼。吹キナス笛ノ悲調、師走ノ空ニ響イテ哀悼ノ氣ハ漲ル。ツイデ駅前ニ並ブ遺族ト遺骨ハ無言ノ面会ヲナシ、僧侶読経ノ後、弔旗ヲ先頭ニ蜷々哀シミノ長蛇ノ列ヲナシ、午後六時半学校忠魂碑前ニ到着。

昭和 13 年(1938)

各種団体ノ焼香アリ。終ッテ武勲輝ク英霊ハ懐シノ我家ニ帰還、安置サル。会員一同モ哀シミノ裡ニ八時頃各自帰宅ス。

十二月廿六日 晴

江北戦線ニテ不幸病没シタ吉村忠雄君ノ忠霊ハ、同日午後四時四十四分御所駅着列車ニテ、在郷軍人や遺族ニ守ラレ無言ノ凱旋。駅前広場ニハ一昨日同様、各種団体、一般村民多数出迎へ、村内僧侶ノ読経裡ニ一昨日同様ノ順序ニテ、懐シノ我家ニ帰還、安置サル。尚卅日名柄小学校デ他ノ勇士ト共ニ、盛大ナル合同葬ガ執行サレル。

十二月卅日 晴

聖戦ニ不滅ノ武勲輝ク郷土ノ英霊、寺田森一義伍長・多田北村芳春軍曹・吉村忠雄上等兵(名柄)ノ合同告別式ハ、卅日午後一時ヨリ名柄小学校庭ニ於テ仏式ニ依リ盛大ニ執行セレタ。



御所駅における「無言の凱旋」こと遺骨出迎え (昭和 17 年頃)

2023年 11 月
奈良県立図書情報館編・発行

第 1 刷